

にしこなかだい団地の 素敵な暮らしインタビュー

2018年度から続けているインタビューシリーズの第3段には、自らリノベーションの設計を手掛けた若い建築家のお宅にお邪魔しました。



団地のイメージが覆る！
フルリノベーションの住まい



団地再生委員会ではインタビューシリーズを冊子として纏めて、団地のカタログの作成に取り組んでいます。来年度には発行して、西小中台団地の魅力を内外に発信していくことを目指しています。

前面に他棟がない1号棟の風景と風通しの良さが気に入って購入を決めたというOさんは設計事務所を営む若手建築家。ダイニングと四畳半の間の壁を大胆に抜いて、回遊性をつくるプロならではのアイデアで、今までの団地にない開放的な空間を実現しています。造り付けの家具によって収納量を確保しつつ、すっきりと統一感のあるインテリアが魅力的です。分譲団地のリノベーションは、構造と共用部以外は自由に改修できるため、色々な住まい方の可能性があるとのことでした。



編集後記

長引くコロナ禍によって、団地のコミュニティ活動は大きな影響を受け続けています。長年みなさんの手で続けてきた夏祭りも、2年のブランクにより今まで通り続けられるのかという不安の声も挙がっているそうです。

これから50周年を迎える中で、自らの手で管理し続けられる団地の在り方を、ハードとソフトの両面からみんなで考えていく時期に来ています。

発行：団地管理組合法人西小中台住宅、団地再生委員会

発行日：令和4年3月

資料作成：有限会社マル・アーキテクチャ（森田）

〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇 MARU。architecture

だんち☆さいせい いいんかい

団地再生委員会たより

令和3年度号

管理組合 杉山理事長よりご挨拶

住民の皆様、平素は管理組合業務に格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

団地再生委員会もコロナ禍で思うような活動ができない中、住民の皆様に「デジタル事情について」アンケート調査を行いました。

この調査は、管理組合および自治会からの情報共有のツールとして何をどのように活用するかを検討する題材として必要な調査であったと思います。是非、内容をご覧くださいますようお願い申し上げます。

今後も管理組合、団地再生委員会の活動にご理解・ご支援頂きますようお願い申し上げます。

末筆になりますが、皆様ご自愛ください。

団地再生委員会 矢作委員長よりご挨拶

皆様には、団地再生委員会の活動にご理解・ご協力をいただき感謝いたします。

ここ1、2年は新型コロナウイルスに翻弄され、私たちの大切なご近所とのお付き合いも制限され、息苦しい環境であることが残念でなりません。

この状況下でも当団地においては、ご近所との関係を維持し、皆様の住みよい環境であることができるように考えて活動しています。

今回のアンケート調査は、コロナ禍というなか在宅ワークなどで一気に加速したデジタル活用環境や今後もさらに進められていくデジタル化を踏まえ、皆様の利用方法を伺った上で、現在の情報発信方法の見直しやデジタルの活用などに生かしていきたいと考えております。

今回のアンケート調査に対して多くの皆様にご協力いただきありがとうございました。一日でも早くコロナ禍が収束することを願っております。

団地再生委員会 活動のご報告

令和3年度も昨年度に引き続き、コミュニティ活動が制限される年となりました。団地再生委員会では、9月から11月にかけて委員会を開催し、全戸アンケートの実施やカタログの作成などを中心に、人を集めずに情報を発信していく活動を実施しました。パンデミック収束の兆しは不透明ですが、感染症対策を大前提にして、これまで築き上げてきた西小中台団地の豊かなコミュニティをどうやって維持していくかを考えながら、来年度も活動を行っていきます。

令和3年度の取り組み

- ・第一集会所等建て替えに関する検討（法的根拠の確認）
- ・素敵な団地の暮らしカタログの作成
- ・全戸アンケートの実施
- ・団地再生新聞の発行

令和4年度の取り組み（予定）

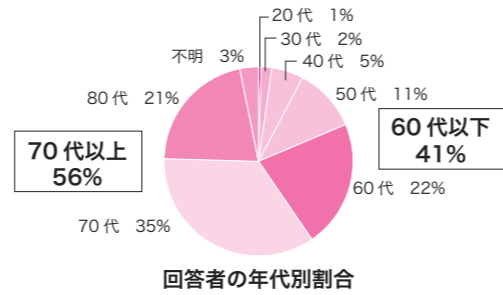
- ・第一集会所等建て替えに関する検討（住民意向調査）
- ・池広場をみんなの居場所にする検討
- ・年末全戸アンケートの実施
- ・団地再生新聞の発行

全戸配布アンケート「教えて！みんなのデジタル事情」結果発表

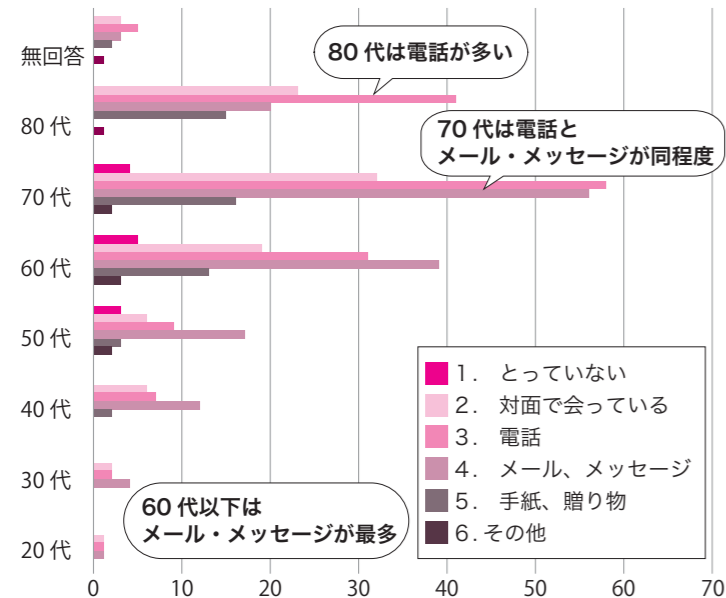
今までのコミュニティ活動は、対面での交流を促進し、団地内に賑わい（人流）を生み出すことを目標としてきました。しかしコロナ禍において、それらの活動は感染拡大防止の観点から自粛を余儀なくされています。一方、社会においては急速にデジタル化が進み、在宅勤務や通信機器を活用した交流が盛んに行われるようになってきました。そこで今年度のアンケートは、従来のコミュニケーションに加えて、デジタルの活用も新たな選択肢の一つになり

回答者の年代別割合

今年度は219世帯のみなさまから回答をいただきました。回答者は70代が35%と最も多く、80代と合わせると全体の半数以上となっています。デジタル機器の普及においては、年代によって大きく状況が異なることが予想されることから、それぞれの回答を年代別に分析しました。



Q1. コロナ禍になってから、従来連絡をとっていた家族や友人とは連絡をとっていますか。また連絡をとっている場合は、どうやっていますか。



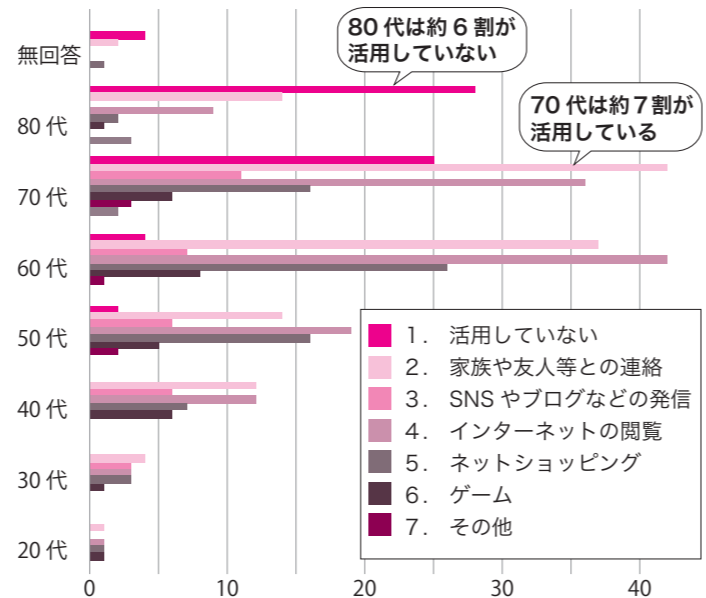
●回答者の7割以上がデジタル機器を活用/70代がデジタル普及の境目に

Q1では「電話」と「メール、メッセージ」が70代では拮抗しており、80代は電話中心、60代以下はメール、メッセージがそれぞれ多くなっています。Q4でもデジタル機器を活用していないと回答した方は、70代の32.4%、80代の59.5%に登り、60代までは10%以下でした。回答者全体では7割以上がデジタルを活用しており、70代がデジタル活用の境目の世代であることがわかりました。

えるのか、西小中台に相応しいこれからのコミュニティ活動を考える契機とすることを目的として実施しました。

結果として、デジタルの活用だけでなく、団地内の現在の情報発信の仕方にも各々課題があることが分かってきました。この結果を踏まえて、これからの団地の情報発信について今後検討を進めていきます。

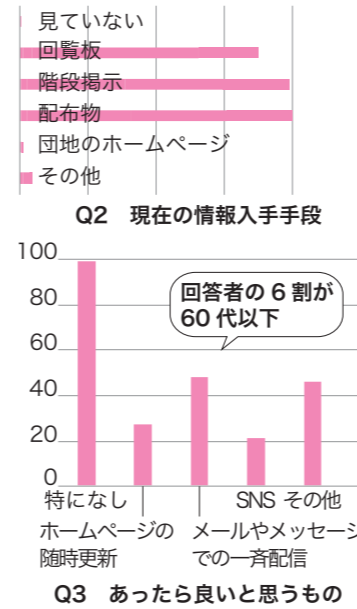
Q4. 現在、デジタル機器を活用していますか。活用している場合、どのようなことに利用していますか。



●身近なコミュニケーションツールにデジタルの活用も

Q4では、「家族や友人等との連絡」や「インターネットの閲覧」に約8割の方が回答しており、スマートフォンやパソコンなどのデジタル機器を、身近なコミュニケーションに積極的に活用している方も多くなりました。また、Q1の自由意見では、テレビ電話なども活用しているという意見が多くありました。ただ一方で、スマホもパソコンも持っていない、高齢者にデジタルは困難、という意見も複数あり、個人個人の状況に合わせて、多様な情報発信をしていくことが必要だと考えられます。

Q2. 現在、団地内の情報（管理組合や自治会からのお知らせなど）をどこで見えていますか。
Q3. 団地内の情報発信として新たにどんなものがあったら良いと思いますか。



●ほとんどの方が「閲覧板」「掲示板」「配布物」で情報を入力

Q2では、ほとんどの方が閲覧板、掲示板、配布物で団地からのお知らせを確認していることがわかりました。世代による特徴は特にありませんでした。

●デジタル世代にはメールやSNS需要が多い

「メールやメッセージでの一斉配信」「SNS」は60代以下の方からの得票が多く、デジタル機器を日常的に活用している世代には、需要が高いことが見て取れます。ただし20代-40代までは回答者数が少ないことから、実際のニーズがどの程度あるかは、今後より多くの方々に直接意見を伺いながら判断していく必要があります。

●デジタルではなく現状のやり方をより良くしてほしいという意見も多数

回答の選択肢は、デジタルツールによる情報発信のみとなっていましたが、自由意見では各住戸への紙配布や掲示板の充実、団地内放送の改善など、現状のやり方をより良くしてほしいという声も多数ありました。

そこで、団地の情報発信への意見や課題について、それぞれ以下に纏めました。

	前向きに活用する意見	現状の課題
メール、SNS等	ペーパーレスで良い。紙はかさばる。気軽に見られると良い。外出先でも確認できると安心。	高齢者が多いので、不向き。パソコンもスマホも持っていない。個人情報流出する危険がある。
ホームページ	魅力的なホームページにしてほしい。配布物にURLを掲載してほしい。	ホームページを見たことがない。ホームページがあるのを知らなかった。
配布物	外出がままならないので配布してほしい。配布物が一番じっくり見られる。	意外と見てなかったり、理解出来ず放って置くとう方が何人かいる。
掲示板	有効活用して、事務費の低減を。広場に大きな掲示板を設置してほしい。	目が悪いので、掲示の字が見辛い。
閲覧板		感染症のリスクが高まるので、やめてほしい。高齢なので回すのがやっかい。
団地内放送	高齢者には団地内放送がベスト。昔のようにTV放送をしてほしい。	聴こえない。(類似意見多数) 聞き逃してしまうことがある。

Q5. 今後デジタルを活用するために団地でスマートフォン教室などを開催するとしたら、どのようなテーマに興味がありますか。

●デジタル機器を利用していない方も興味

はじめにQ4で「デジタル機器を活用していない」と回答した方のうち、興味のあるテーマがある方とない方の割合を分析しました。結果として、現状はデジタル機器を活用していない方でも、半数近い方がスマートフォン教室などに興味があるということが確認されました。

●防災やアプリはデジタル世代の需要も

「防災に関すること」と「便利なアプリの紹介」については60代以下の割合が約4割にのぼっており、デジタル世代においても比較的関心の高いテーマであることが確認されました。

